

自分が縄文人ならどんな土器？！

～ひもづくりで表現しよう～（図工科）

三重県 名張市立梅が丘小学校 上谷典秀

■ 授業のねらい

社会科で学習した縄文土器は、その装飾的な特徴から自由な発想で作ることができる子どもたちにとって魅力的な題材です。まず、縄文土器を弥生土器などと比較しながら、その特徴をとらえていきます。そして、自分が縄文人なら、どんなデザインをするか、何枚かのラフスケッチを通して考えていきます。ひもづくりの技法を学び、それを基本として作品に仕上げていきます。これらの活動を通して、土器作りの基本的な技法であるひもづくりを動画によるデジタルコンテンツによってわかりやすく学びます。また、装飾的土器のデザインを考えることで、自由に表現するための発想を広げ、創り出す喜びを味わわせていきます。



■ デジタルコンテンツからの「子どもの学び」

表現したいと思っても、それを表現する技能が高まっていないと、自分の思うような作品には仕上がりにません。この授業で学ぶ「ひもづくり」は土器作りの基礎となるものですが、このコンテンツは、子どもたちに「制作の手順とポイント」をわかりやすく示したもので、次の9つの動画クリップから構成されています。

1. 土器の底をつくる
2. ひもを作る
3. かべを作る
4. かべを整える
5. かざりを作る
6. かざりを作る2
7. 表面を仕上げる
8. できあがり
9. すべてをみる

子どもたちは、それぞれの作品づくりの工程を細かく分けたクリップを見ることによって、自分に必要な技法を何度も確認することができます。また、製作工程を動画で見ることによって、作品作りの見通しを持ち、表現したいものを創り上げる技能を学びます。

■教材作成のポイント

教材をデジタル化し、大きく映し出すことで、今まで教師の実演では細かいところまで伝えることが難しかった問題を解消することができます。また、個々の理解度を高めることで子どもたちの作品作りの時間格差が少なく、比較的短時間で子どもたちが満足できる作品をつくりだすことができます。ですから、作成のポイントとしては、指先をアップで撮影し、指を動かす方向や力のいれ具合がわかるようにしています。また、製作工程を細かく分けて動画クリップにしています。



■時間数 準備物

7時間 プロジェクタ スクリーン 粘土板 ねんどペラ など

■授業の流れ

第1時 縄文土器と弥生土器の画像を比べ、その装飾的な特徴をつかむ

まず、縄文土器と弥生土器の違いを考えさせます。画像をプロジェクタなどで大きく映し、その違いを自由に出し合います。また、どうしてこんな模様や飾りをつけたのかを話し合い、社会科で学習したことも出しながら、縄文土器の特徴をとらえていきます。



儀式・祈り 装飾的



実用 非装飾的

第2時 自分が縄文人ならどんな土器をデザインするかを考え、ラフスケッチを描く

スケッチブックなどに、自分が縄文人なら土器のデザインをどのようにするのかを考えながら、自由にデザインさせていきます。土器にタイトルをつけることで、どういったテーマでデザインしていったのかを考えさせながら、ラフスケッチを何枚か描かせていきます。



第3時～第6時 ひもづくりの教材コンテンツを視聴し、土器作りをする

ひもづくりのデジタルコンテンツを見ながら、見通しを持ち、作成します。自分が表したいものにあったコンテンツを選びながら技法を学びます。教師は、それぞれの活動を見ながら、工夫された表現を見つけ、他の子どもたちに紹介して広げていく役割をします。そうすることによって、お互いが学び合うことができます。また、デジタルコンテンツだけでは進めていけない子どもたちに個別に指導していきます。



土器の底をつくる



ひもをつくり、かべをつくる



どべを作って飾りをつける



かざりをつけて、表面を仕上げる

第7時 作品鑑賞会を行う

